



★永遠ではないから尊いということ★



保護者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。幸多き一年となりますよう心よりお祈りいたします。2026年は午年で、午（馬）は「勢いと挑戦」の象徴でもあり、馬の力強さにあやかり飛躍を願う人たちもたくさんいることでしょう。心機一転、新しいことにチャレンジするのもいいですね。千里の道も一歩から。どんな目標も地道な一歩の積み重ねで達成できます。継続する力を学校でもご家庭でも培っていただけたら幸いに思います。

〈最後とは知らぬ最後が過ぎてゆくその連続と思う子育て〉 読売新聞 1/4 付朝刊社会面掲載

歌人 俵 万智さんがある時、家族のアルバムや子供が赤ちゃんの頃の寝姿を詠んだ歌、絵本を読み聞かせている頃にしたエッセーなどを見返しているうちに、子育ての記憶が次々とよみがえり、「あれ？いつが最後だったんだろう」と疑問が浮かんだそうです。子育てで「初めて」はすごく意識するものだが、家族そろってご飯を食べるとか、子供を追いかけて服を着せるとか、日常のささやかな出来事は知らぬ間に最後の瞬間が過ぎていく。それに気づいたとき、「もし最後だとわかっていたら、もっと大切に味わっていたのかな」という気持ちが湧き起こり、「最後かもしれないという気持ちで日々と向き合うことが大切」だと実感したそうです。

上記短歌の「子育て」の部分で、思い思いの言葉に変えてみてもいいでしょう。何事にも終わりは訪れます。長く続いてほしいという願望があっても、予期せぬ理由で終わりを迎えることもあります。永遠ではないから尊いのだと思います。3学期は、令和7年度の最後の学期です。いま一緒に学んでいる仲間や先生達と残り少ない日々を大切に、やさしさと笑顔があふれる毎日を送ってほしいです。



この冬休み、私は母の一周忌と父の見舞いを兼ねて青森に帰省し、時間をやりくりして念願の津軽鉄道「ストーブ列車」に乗車しました。アテンダーにだるまストーブで焼いていただいたスルメをかじりながら、雪原に飛来する白鳥の群れにしばし見惚れていました。皆様、機会がありましたら是非体験してみてください。防寒完備で。



本校では、阪神淡路大震災から31年目を迎えるにあたり、1月13日（火）に震災セレモニーが執り行われます。命の尊さを噛みしめ、毎日元気に生きられていることに感謝できる1日にしたいと考えています。 文責：寺沢 光明